

道の駅しもつまの活性化策
——地元の小学生とのステンドグラス制作——

社会学部現代社会学科 1822057

指導教員 大塚良治

氏名 塚本紗稀

要旨

本研究では、下妻市との関係人口を増やすための活動として、騰波ノ江小学校・道の駅しもつま・下妻市と連携して実施したステンドグラス制作を通して、道の駅しもつまと騰波ノ江小学校の関係性の変化や、道の駅しもつまと地域の活性化について考察した。

序論では、本論文執筆の経緯と目的、これまでの研究の経緯など全体的な概要を述べた。

第一章では、道の駅に関する概要と沿革、今現在の状況や課題と全国の道の駅に関して述べた。

第二章では、下妻市が定めている第6次下妻市総合計画書からプラスの要素とマイナスの要素をSWOT分析により下妻市の活性化の戦略を策定した。

第三章では、ステンドグラス制作の主体となる道の駅しもつまについての概要と、道の駅の関係者へのヒアリング調査を通して、道の駅運営の考え方や取り組み、課題とコロナ禍の運営など道の駅しもつまに関して述べた。

第四章では、ステンドグラス制作案のきっかけから作品作りの概要、制作の手順など進行状況について説明した。

第五章では、ステンドグラスの制作を行った騰波ノ江小学校の概要との教育方針などをまとめた。

終章では、ステンドグラス制作を通して、道の駅しもつまと騰波ノ江小学校との関係の変化、道の駅しもつまと地域の活性化に向けた可能性の考察を行った。